

平成 28 年 10 月 20 日

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名: 清政会

報告者: 垣内秀孝 ㊟

実施場所: 奈良県 橿原市	実施日: 平成28年10月13~14日
------------------	---------------------

■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)

過疎化に伴う課題である人口減少や高齢化は、日本全体の直面している課題でもあり、本市の課題である。このことから過疎地域の生き残り取組にかいて、全国の優れた取組を学ぶ。又、参加者の交流を図るなど、人々へのつながりを通じて将来に何か取組むことを考える契機とするため「全国過疎問題シンポジウム2016」を学ぶ。

■参考とすべき事項

シンポジウムの全体会でのスタートは、まず、基調講演として、徳島県上勝町で有名な「茶臼産業」で成功した町おとしの中核、主役である「横石知三代」(株)いりどり代表取締役)の「一枚の茶臼が作り出した幸せ〜居場所と仕事づくりの経験」である。要旨は、誰かだて居場所と仕事がなく、人は自分と役割があることが何よりうれしい。(「一枚の茶臼」は、料理で血を流している、いりどりの茶臼物である。それが浸み、地元の一大産業となり、お茶臼、でも主役での立物である。)

同会を含み、5名のパネルディスカッションでは、奈良市、堀尾直紀(総務省地域創生アドバイザー)、鳥取県 藤山 浩(鳥取県中山内地域研究センター 総監督) 奈良県 根田 麻由(伊那花副人局長) 奈良県 水本 実(東吉野村長) 本市での討議であった。

■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきかなど)

シンポジウムのサブタイトルでもある「誇れる、住み良い、住み続けたい地域」〜過疎地域で幸せを暮らしに生かす〜

パネルの活動から参考にすべきは、地域活性化のためには、最も大切なことは、「人づくり」との考えのもとに、地元を愛し、地元で生活すること、誇りを持ってもらうこと。住民の地域活動への参加を促進するため、行政や他団体等の協働により、組織的、継続的に活動すべきである。様々な団体や個人、更には後継者等が加わり地域課題、活性化の担い手となる人材育成につなげる。取組み活動のなかで地域に存在する自然、歴史、文化、食などの地域資源を見つめ直すこと。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

28年10月21日

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名: 清政会

報告者: 岡村信吉

実施場所: 奈良県、かしまり市万葉ホール

実施日: 28.10.13

目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状など)

豊かな自然、農地、山林等を有し、日本の公益的役割を担う過疎地域、中山内地域において、今、人口減少、少子高齢化進展などによる様々な課題に直面、本市も例外であり、特に均等に早急な対策が必要と意識している。こうした中で行われる奈良県志野地域という山村で開催される全国過疎問題シンポジウムに参加し、同じ様な環境にある自治体、団体がどのような智恵を取り込み挑戦しているかと参考にしていく研修参加。

参考とすべき事項

岩瀬講演

おなみ葉の産業成城の巧上勝いどり代表 横石知二代氏より。

- 1. 主産業みかん全般に端を築いた葉の産業の経済
  - ・誰に何を居場所と企画があるモーターにある意識慣習からの脱却 - 全員がやるべき醸成
  - ・産業として、価値感変化の時代着目、情報収集と必要な仕組みづくりへ挑戦
  - ・挑戦の考え方、一マックスエフマックスに変える促し方、魚の連鎖から抜け出す。
  - ・戦略 - 世界を視野に入れた取組み

② 主として産業の取組経済でなく、取組を意識のあり方中心の内容

パネルディスカッションテーマ

「訪いたい、住みたい、住み続けたい地域 ~ 過疎地域が幸せな暮らして欲しい ~」

- ・中山内過疎地域の自然環境をほかし、果物の公開には観光産業振興にはどう取り組むか

提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきかなど)

- ・いづれ酒を飲んで愚痴をいう
- ・田舎は負かぬという意識
- ・いづれ同じ人が集まった協議
- ・人と批判するところから自棄茶飲
- ・最初からあり方を変えない
- ・男性が中心で女性の働きが弱い

こうした古い慣習(上勝町約40年前の状況)が現在本市にも残っている節に考える。危機感をもつ様々の取り組みを考えた上での一体感醸成の上からも、市自身が意識改革の面も必要。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

28年10月2/日

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名: 清政会

報告者: 岡村信吉 印

実施場所: 奈良県 天川村小学校

実施日: 28.10.14

■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状など)

シオシム 2日目の分科会として天川村の取組みについて研修。  
天川村、面積 175.7km<sup>2</sup>、人口(27年) 1,053人 高齢比率53% 森林面積 97.6% 内、人口林(杉松)61%  
であり、地形は急峻、農地面積は限られているという点から環境は悪く、かつては林業が盛ん、又寧ろ中心とする観光の大きな産業であったが、人口減、少子高齢化の進行に伴い、林業の担手がいない現状、  
どうして家柄のなごとの薪の取組みがとれているのか。

■参考とすべき事項

パネリストセッション

テーマ: 山麓の里からのメッセージ〜豊かな地域資源を活用して取組め〜

1. パネリスト 4名にそれぞれ取組み紹介

そのうち天川村村長の報告

数多い豊富な資源と、水から産出する可能性のある資源を活かし、林業の再興と観光振興をリンク、村の活性化を目指す。

① 村(2060年)人口削減 380人という中で、移住・定住を促進すれば、他市と同じ施策で天川村に住んでみたいという意向、その要因は、地域に根ざった仕事への要求は雇用確保が望ましいこと。

② 新たな地域経済の活性化について観光はすべからず、人口減少という大きな課題は解決できない。長らく低迷が続き農林業であるが、波及効果の大きな産業であり、観光事業との連携不可欠。

③ 林業対策について、天川村山林は村外所有者の山林が多く、又急峻であり、他市の取組事例とちがちなところはない。 ※ その上、パネリストの皆の提案を参考に更なる地域創生を目指す旨のべす。

■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきかなど)

本市以上の悪環境と脅かす中で、危機感が強く、どうしてかと村民の安全安心の生活の確保と村の存続発展にかける自治体首長の想いに感動。  
本市も奮起して、将来の取組みには本気で取り組むべきではない。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

## 調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：清政会

報告者：竹内光義 ㊦

実施場所：奈良県橿原市かしはら万葉ホール

実施日：平成 28 年 10 月 13 日・14 日

## ■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）

- ・全国過疎問題シンポジウム 2016 in なら：の全国大会に参加した。  
多くの過疎地域では、人口減少や少子高齢化の進展、地域産業の衰退や生活基盤の弱体化、集落消滅の危機など、さまざまな課題に直面し、また、日本全体が直面している問題となっている。過疎地域の取り組みについて、参加者相互の交流を図るとともに事例発表を研修視察して議論が深まり大変参考になった。  
全体会議では、基調講演として【一枚の葉っぱから生まれた幸せ～居場所と出番づくり～】過疎と高齢者に悩む町を元気にした（横石知二先生）が印象に残った。

## ■参考とすべき事項

- ・奈良県五条市では、二日目の分科会で過疎地域自立活性化優良事例 5 団体の発表があり参加した。なかでも和歌山県九度山町の（真田いこい茶屋）では、全スタッフが地域に住む女性であり、ボランティアで従事し、観光客へのおもてなしをはじめ、買物弱者である高齢者のためのミニ商店としての役割を担い、コミュニティの再生を図るための憩いの場を提供している。
- ・岡山県高梁市の宇治地域まちづくり推進委員会では、宇治町を次世代につなぐために、住民意識の把握や共有を行いつつ、地域課題に対応した住民総働のまちづくりを目指し、農村型リゾート施設の運営、農業、農村体験事業などを通じた都市との交流活動に積極的、継続的に取り組んでいる。

## ■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

- ・全国的に、著しく人口減少や高齢化が進行しており、地域活力の低下や生活環境の整備に格差が見られるなど、依然厳しい状況にあり田園回帰の動きを始め、地域間交流の拡大、情報通信網の発展、価値観の多様化等、過疎地域を取り巻く環境は大きく変化している。こうした中で、誰もが病気になって初めて健康に感謝しているが、自分の将来を見つめる事が大切である。自分から出来ることから始める。その時に決めたことは絶対にやってやる強い気持ちが必要である。過疎地域は豊かな自然環境に恵まれた生活空間を提供するとともに、地域産業と地域文化の振興を図り、個性豊かで自立的な地域社会を構築することにより、美しく風格ある国土の形成に寄与する事が期待されている。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

28年10月17日

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名: 清政会

報告者: 田中五郎 印

実施場所: 奈良県橿原市 曾爾村

実施日: H. 28. 10. 13 ~ 14

■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状など)

過疎地域での先進的まちおこしを学ぶ。

■参考とすべき事項

1. 仕事は「専業」ではなく「半農半X」(兼業)の認知が時代になった。
2. 地域は「よき者 若者、バカ者」の交わりと言われがちだが、発表事例の多くが、それに当てはまる。
3. 曾爾村(人口1556人)
  - 観光公社(H.10設立、資本金300万円)
    - ・ 公益事業 ~ 特産品開発, 植栽活動, 観光PR, 調査事業, 文化交流活動
    - ・ 収益事業 ~ 6施設(指定管理)
    - ・ 27年度収入4.14億円(村への累計寄付金1.6億円)
  - 施設整備(補助金, 過疎債の有交り利用) → 指定管理 → 村への寄付

■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきかなど)

1. 本シンポジウムは、5会場、1講師、22パネラーによって全国の先進事例の発表と現地研修が行われた。  
来年度からは、4分科会各1人の本職員を派遣する内容あり。
2. 補助金+過疎債での産業(雇用)振興に本気で取り組め。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。



## 調査・研修報告書(会派個人用)

会派名: 清政会

報告者: 坂本義明<sup>印</sup>

実施場所: 奈良県橿原市

実施日: 10月 13, 14日

## ■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)

全国的に注目されている少子高齢化と過疎の現状の対策を学ぶ為。

## ■参考とすべき事項

分科会では、天川村に伺いお話し。  
98%山林の天川村、大峰登山が中心を逆手に取り観光産業に生きる道を探っているが財産の木材を生かしていけなかった。但し、ゆたかと自然の中で背伸びをしない生活は参考になる。他は、若手農業経営者の無農薬でのハウス栽培とスクリング、我が市でも大いに参考になった。

## ■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など)

上記、若手農業者による耕作放棄地を活用しての土づくりと無農薬でのハウス栽培、分業化(作業)による体制で「むだ」の無い作業と、多品類生産による実績で、営業活動は将来を見据えた農業法として参考としたいと思いたい。

## 調査・研究報告書（会派個人用）

会派名：清政会

報告者：近藤久子

実施場所：奈良県 かしはら万葉ホール

実施日：平成28年10月13日（木）

## ■目的・課題 問題事項（調査に先立っての思いや本市の現状 など）

「全国過疎問題シンポジウム 2016 in なら」

訪りたい、住みたい、住み続けたい地域

～過疎地域で幸せな暮らしに出逢う～

基調講演「一枚の葉っぱから生まれた幸せ～居場所と出番づくり～」

横石 知二 氏 （株）いんどり代表取締役

## ■参考とすべき事項

- 1、地域で仲間と共に（地縁）好きな事で稼ぐ（職縁）新たなコミュニティー（好縁）
- 2、稼ぐ＝身の丈に応じた生活基盤を作る
  - 仕組みを作る
  - 情報を伝える
  - 需要の把握
- 3、情報＝①分からない、知らないをなくす。
  - ②見たら得する情報をタイムリーに。
  - ③今の時代背景も加えて伝達
  - ④関心を持って、自分で何をすればいいのか考え、組み立てる事が大切  
行政がしてくれる は 止めよう。
- 4、高齢者と若者とのつながりづくりを基に後継者、移住者を。
  - ①緑のふるさと協力隊 ・田舎で働き隊 ・地域おこし協力隊
- 5、考えない、想像することが出来ない時代にあって、体験空間を作る  
体験→自分に気づく→やりたい事の発見→受け入れ側と繋がる→お互いが良い関係
- 6、古い慣習からの脱却が必要。変わらなければならないのは自分。
  - ①いつも愚痴を言い、いつも同じ人が集まって協議、田舎は負け組という意識、人を批判することが日常茶飯、男性中心で女性の出番なしの脱却。
  - ②変わってるなど思える人を、上手に受け入れることが大切
- 7、誰にだって居場所と出番がある
  - ①まだ、挑戦することはある。
  - ②諦めず、粘って粘って地域を創ろう
  - ③負の連鎖から抜け出そう

## ■提言・その他（本市の施策にどのように活用すべきか など）

まず思った事は、全国の他市町のように職員もこのシンポジウムに参加すべきであり、ネットや書籍からは到底得ることの出来ない熱気溢れる提言を、体感すべきではないか。

横石氏の「葉っぱには意味があった。ただの季節感で使っているのではなかった。人間として力をつける事の重要性に気付いた。」「みんなで相談しても決まらないから協議会は作ったことがない。誰がやって誰が責任をとるのが大切。」どの地域においても人材が必要であり、人材育成への時間と資金は惜しめない。格差を埋めるためにも。

## 調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：清政会

報告者：近藤久子

実施場所：奈良県 かしはら万葉ホール 奈良県 国立曽爾青少年自然の家	実施日：平成28年10月13日（木） 平成28年10月14日（金）
<p>■目的・課題 問題事項（調査に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>「全国過疎問題シンポジウム 2016 in なら」</p> <p>1日目「過疎地域で幸せな暮らしに出逢う」</p> <p>2日目「田舎は宝の山だ！！～地域資源を活かした起業を考える～」</p> <p>2日間のパネルディスカッションの中から、抜粋した内容を以下にまとめる。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>1、半農半×研究所代表 塩見直紀 氏</p> <p>①人生探求都市 旅する若者に生き方や未来のヒントを提供できるまち          魅力的な仕事がある 魅力的な発想がある 魅力的な人がある          魅力的な場所がある 魅力的な学び舎がある</p> <p>②地域資源が減らないこと・さらに育まれること・増えることが農村地域で重要</p> <p>③人口問題 一人を一人として考えないで、様々なスキルのある人がいればいい。          長野県・一人多役（組み合わせによりまだまだ新しいものを作っている）</p> <p>2、島根県中山間地域研究センター研究統括監 藤山 浩 氏</p> <p>①「田舎の田舎」に次世代定住 2015年島根県の合計特殊出生率1.8に上昇          33.4%で4歳以下の子どもが増加          人・自然・伝統と繋がりが息づいている田舎</p> <p>②所得の1%、人口の1%の取り戻しで、人口安定化達成可能。          深刻な人口ビジョンの誤り。3世代のバランスをとった定住増が重要不可欠。</p> <p>3、NPO法人美山里山舎 代表理事 小関康嗣 氏</p> <p>①極小規模木質資源フル活用 木が売れないのでは無い。売る気が無いだけだ。</p> <p>②いかにして初期投資を抑えるか。機械は1千万円単位のものでもネットオークションでは最低10万円単位から購入可能。レンタルの方法もある。</p> <p>③林業は分業化しすぎたのではないか。集落の製材所を開こう。木材を消費する仕組みを自ら作り出そう。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策にどのように活用すべきか など）</p> <p>人口が2,000人から300人の町や村が、輝ける方法はそれぞれの地域の人との繋がりがなくしては語れないが、新しい感覚を取り入れる柔らかな感性の持ち合わせもいる。そこに住んでいる人が生き方のデザインを考える事は、健康福祉までつながっていく。「何もない」は、気付いていない。気付こうとしていない。この否定的なサイクルから抜け出せるか否かは、住民自らの情報を的確にキャッチする能力と、行政からの発信能力が問われる。</p> <p>各地での成功事例が示すものは、まず一人からの出発が多くある。責任者としての自覚が求められ、だからこそ魅力ある人達であった。正に人が地域を創る、変える。</p>	



## 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：清政会

報告者： 政 野 太 ㊟

実施場所：奈良県橿原市ほか	実施日：H28. 10. 13～14
<p><b>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</b></p> <p>全国的な課題である人口減少、少子高齢化は、過疎地域と言われる地方において、様々な深刻な問題となっている。本市の現状はまさにその渦中と言える。しかし、ただ手をこまねいている訳にはいかない。全国的な優良事例を参考にし、また意見交換を通じて本市の人口減少課題に対する取組へのヒントになればとの思いで研修に参加した。</p>	
<p><b>■参考とすべき事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が参画できる舞台作りが一番重要である。(9割が舞台作り)</li> <li>・身の丈に応じた生活基盤をつくる。 ・人は自分に役割があることが何よりも嬉しい。</li> <li>・皆が賛成することにはチャンスは無い。皆が反対する事こそがチャンスである。</li> <li>・高齢者使用パソコン導入の際、何にでも使えると言うと興味が薄れる。見ないと損をする・・・興味がでる。 ・地方には情報が足りない。見ている人と見ていない人の情報格差が大きい。</li> <li>・古い習慣からの脱却→田舎は負け組という意識、いつも同じ人が集まって協議、最初からあきらめる、男性が中心で女性の出番が少ない。</li> <li>・成果を実感させる→情報 ・起業を増やす。</li> <li>・価値観→社会貢献・地域貢献→若者を中心に近年急増</li> <li>・逆境でこそ、マイナスをプラスに変え負の連鎖から抜け出す。</li> <li>・高齢者には若い人に教える事がたくさんある。→教えたいと思っている。→体験空間を作る。</li> <li>・自分事だと思えるようにする。→他人事から自分事へ→これができるのはあなたしかいない。</li> <li>・地域おこし協力隊→魔法の様に変わる事はない。</li> <li>・過疎問題は絶対にあきらめてはダメ。</li> <li>・アイデアとは、既存の要素の新しい組み合わせ以外の何ものでもない。</li> <li>・世界を変える魔法は「組み合わせ」の中にこそある。</li> <li>・地域資源を活かした起業を考える。</li> </ul>	
<p><b>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</b></p> <p>全国の優良事例を見ると I ターン者（移住者）は、地域での起業をしている。地域にある既存の資源を活用し、新しい産業を生み出す事で新たな雇用を生み出している。都市部に住む若者の田園回帰志向が高まる中、本市の様な中山間地域、過疎地域にとっては絶好のチャンス期である。単に田舎暮らしがしたいけど、「仕事先が無い」「I ターン者への支援が豊富」「子育て支援が充実している」という視点だけの定住希望者は、より都合の良い施策を展開している自治体を選ぶ。それでは将来にわたって住み続けていく事に期待は出来ない。本市においては、決して就職先が無いわけでは無い。その収入面において不安が生じている。そこで、その解決策として「起業を目的とした定住プラン」、「より具体的な半農半Xプラン」の二つの施策を提案する。起業に関しては、本市の資源を活かす視点、また地域に不足している事業という視点などから具体的な事業を選び出す。半農半Xにおいては、市内事業者の求人の実態を調査し、企業同士の雇用のあり方について新たな組み合わせを構築する。いずれにしても、行政だけで、まして施策だけで解決できる問題では無い。商工業・福祉・農業・教育・子育てなどあらゆる視点による総力で、新たな組み合わせによる仕組みの構築が、過疎問題の解決の糸口になる。</p> <p>流れに身を任せていたのでは過疎の波に飲み込まれる。逆風に向かってこそ新たな浮力を得る事ができる。多くの人が否定をする、そんな提案にも耳を傾ける事ができる行政運営に期待したい。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。